



件名: 第1回アジアビーチゲームズ遠征報告書

作成: (財) 日本レスリング協会 総合格闘技委員会
ビーチレスリングプロジェクトチーム

作成年月日: 2008年11月1日

大会概要

大会名	第1回 アジア・ビーチ・ゲームズ インドネシア共和国・バリ島 参加45カ国、参加者3,000名、開催競技17種目
競技名	ビーチレスリング 参加13カ国 男子のみ、65kg級、75kg級、85kg級、+85kg級
大会期間	2008年10月18～26日 (競技期間 2008年10月24～25日)
今後の開催予定	2010年 (オマーン)、2012年 (中国)、2014年(フィリピン)

チームメンバー

役 職	入 賞	氏 名 (所 属)
監督		木口 宣昭 (ユニバーサルチャンピオン代表)
コーチ		洞口 善幸 (マイ・スポーツハウス代表)
マネージャ		奥田 正則 (マイ・スポーツハウス所属)
選手 - 65kg級	第3位 (9)	洞口 幸太 (日本体育大学)
選手 - 75kg級	第5位 (9)	小田 貴久 (高知県土佐塾中学高校教員)
選手 - 85kg級	第5位 (10)	水口 貴之 (岐阜県高山市立松倉中学校教員)
選手 - +85kg級	第7位 (9)	清水 友康 (岐阜県飛騨高山高校山田校舎教員)
	※()内は参加選手	
ITO		村本 健二 (港区市役所勤務)
ITO		塚本 裕昭 (デュボン株式会社勤務)

1. 報告書の目的

日本代表ビーチレスリングチームは、4名のレスリング選手が4階級にエントリーした。結果は全員が入賞を果たし、65kg級洞口幸太選手が三位となり銅メダルを獲得した。大会は成功裏に閉会式を迎え、出場選手は特に大きなケガもなく全員無事帰国した。

本報告書は、ビーチレスリング競技の経緯・試合結果・今後の課題について述べることを目的とするものである。

2. ビーチゲームズ概要

第1回ビーチゲームズは、アジア・オリンピック評議会(OCA)の管轄の下、二年毎に開催されるスポーツ競技会である。OCAは、アジア地区で開催される夏季冬季の「アジア大会」「ユニバーシアード大会」と並び、屋内競技を集めた「インドア大会」、そしてアウトドア競技を集めビーチで行う「ビーチ大会」の開催を管理監督する。

ビーチゲームズの開催予定地は二年毎に場所を移し、2008年インドネシアを皮切りに、2010年オマーン、2012年中国、2014年フィリピンまでが決定している。

今回の開催競技は以下の17競技であった。なおOCAからは、事前に4カ国以上の参加が得られない場合、その競技は大会から削除される可能性を強く示唆されていた。

01	ビーチ・ハンドボール	11	マラソン・スイミング
02	ビーチ・カバディ	12	パラグライディング
03	ビーチ・ペンカシラット(格闘技)	13	セーリング
04	ビーチ・セバタクロ	14	サーフィン
05	ビーチ・サッカー	15	トライアスロン
06	ビーチ・バレーボール	16	ウィンドサーフィン
07	ビーチ・レスリング	17	ウッドボール
08	ボディビルディング		
09	ドラゴンボート		
10	ジェットスキー		

準備委員会は2007年5月より発足し、四半期毎に進捗会議を開催していた。

アジアレスリング委員会(AAWC)キム・チャンキュー会長は、日本レスリング協会福田会長にサポートを依頼、日本サイドはこれに応じて過去の開催経験から会場設備やルール解釈等について情報提供を行った。

3. ビーチレスリング競技概要

3.1 試合会場

試合会場については、2008年4月の定例会議の際に日本での経験をドキュメントにまとめ、インドネシアに提供した。会場は、カバディー及びベンカシラットと共有とし、スケジュールが重複しない前提のもとで各競技団体が競技運営を行うこととなった。

会場は広いスペースが選定され、観客席が三方から生まれ、残る海岸方向はフェンスで囲まれた。計量会場、ドーピングスペース、役員並びに選手控え室などはテントによる設営で、試合場周囲に余裕をもって配置された。

セキュリティは厳重で、競技の行われる地区のゲートでは全ての車両のチェックが行われ、また各ホテルでも駐車場に入る前に車両のチェックが行われた。各競技場の入り口のセキュリティガードは、入場者・選手を問わず身体検査が行われた。

3.2 試合ルール

今回はアジアレベルでの初ビーチレスリングということもあり、事前に大会要綱を配布することができなかった。従って、ルール打ち合わせは競技開始の前日までにITO(テクニカルオフィシャル)の会議で決定され、監督会議と競技会場視察の段階でデモンストレーションを通じて周知徹底を試みた。

ルールについては、韓国キム・イッチョン審判長を中心に、FILAビーチレスリングルールブックを原則とした。

- (1) 1試合、1ピリオド3分の試合時間とする。
- (2) 動きが止まったり膠着した場合は、レフリーは選手をスタントポジションから試合再開させることができる。
- (3) レフリー1名、ジャッジ1名で進行を管理する。
- (4) 先に2ポイントを取った選手を勝者とする。同点終了した場合、レフリー裁定とする。
- (5) 選手は上半身裸とし、組み合わせ表から赤青の識別を行い足首にテープを巻く。
- (6) フリースタイル・レスリングをベースとし、場内でテイクダウン或いは投げ技により相手選手を倒した場合、或いは場外へブリッグ・アウト(攻撃する意志を持ち、体の一部をしっかりとホールドして場外に出すこと)した場合、攻撃した選手に1ポイントを与える。また両肩がついた場合、フォールを宣告し試合終了とする。またパーテレポジションの選手

のバックを取った場合、バックを取った選手に1ポイントを与える。

- (7) 単なる引き落としでヒザをついた場合、或いは単なる押し出しは技術とは認めない。また、攻撃の際にヒザをついたり、動きがとまっただけでは相手のポイントにはならない。
- (8) 1ポイントがレフリーにより宣告された時、レフリー判断により各選手セコンドは選手の身体についた砂を落とすことを認める。
- (9) 警告やパッシブは記録しないが、消極的な選手に対して口頭で「アテンション」を与えることができる。これはレフリー裁定の際の判断情報として用いられる。
- (10) 反則については一般ルールに準じる。
- (11) 各階級は、午前中に予選ラウンドを行い夕方の決勝戦で最終順位を決定する。三位決定戦は、決勝まで進んだ選手に負けた選手の中で行われる。

4. 今後の課題

4. 1 選手強化面

- (1) 選手たちは砂の上のトレーニングが必要となる。砂の上で行う基礎体カトレーニングと、技術の反復練習が試合で勝つための必須条件となる。定期的な強化合宿の開催、トレーニングメニューの紹介と理解の共有が大切である。
- (2) バリの砂は日本のものとは大きく異なっており、木目細やかであり、貝殻や石などは混じっていない白い砂である。日本でのトレーニングに於いても、同質の砂上でトレーニングしないと試合環境では感覚が大きく異なる(特に地面からの反動)。
- (3) 午前午後ともに最大一時間半程度のセッションとなったが、赤道直下の砂地は熱く、また直射日光から受ける紫外線も体験したことが無いほど強烈である。ビーチレスリングの環境に慣れるためのあらゆる努力が必要であろう。
- (4) 今回の優勝は、パキスタン・アフガニスタン・モンゴル・ 코리아に分散したが、いままでマットの上では強豪でなかった国々が台頭してくる可能性が大である。そこに大会があり、メダルがある限り、ビーチレスリングだけに集中して強化してくる国が現れると予想される。

4. 2 第4のレスリング

- (1) ビーチレスリングは、フリースタイル・グレコローマンスタイル・女子フリースタイルに続き、第4のレスリングとして地位を固められると思われる。実際、2010年シンガポール開催予定の18才以下ジュニアオリンピックでは、「フリースタイル」「ビーチレスリング」が開催国の選択競技として決定している。

- (2) FILA会長の意向として、多くのリゾート地で気軽にレスリングを見たり参加したりして、レスリングへの関心が高まることを強く望んでいる。今後もアジア地区でのビーチレスリングの機会は増えてゆくと思われる。
- (3) 来年5月、タイ国パタヤにて行われるアジア選手権大会では、最終日にフリー・グレコ両スタイルの選手を招いてビーチレスリング大会を企画している。今後は、アジアレベルでもビーチレスリングへの啓蒙が実行されてゆくことになるだろう。
- (4) 日本レスリング協会においても、ビーチレスリングの大会を定期的に企画し、審判員や運営組織を育成してゆくことが望ましい。また、ビーチバレーボールとは共通な点が多く(試合場、試合場レイアウト、砂質の確保等々)、相乗効果が多くの面で期待できる。

4.3 運営面

- (1) アジアビーチゲームズは、今後も赤道直下のリゾート地での開催予定が多い。屋外での活動は一時間半程度が限度であるため、参加人数・試合数等の考慮が必要となる。今回はセンターコートは一面だったが、複数面の準備も検討課題となる。
- (2) 南国の天気は読めない部分が多く、雨のために試合が開始できない、或いは雨季では中断も止むを得ない場合もでてくる。また午前と午後では陽射しの強さや方角が異なるため、健康面の注意も大切である。屋内で培った常識を見直しておく必要がある。
- (3) 砂質の統一が図れば、選手のケガ防止やトレーニング方法の確立に役立つと思われる。また海岸の少ない国々でも、基準にしたがってビーチレスリングに取り組むことができるようになる。

以上

フォト



日本チーム試合前の会場チェック



競技場ゲート



65kg級洞口幸太選手三位入賞



試合場の光景 熱狂的な応援席



銅メダル獲得



試合開始前には砂をならした状態だが



すぐに足首まで砂に埋まってしまう



監督審判会議 ルール整備中



ディフェンスではバランスを取ることが難しい



基礎体力を発揮する準備ができていないと勝てない